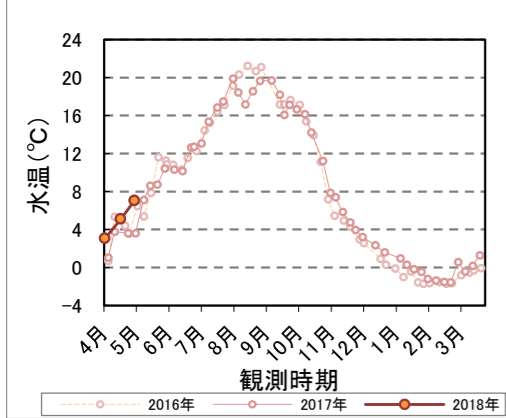


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2018年4月)

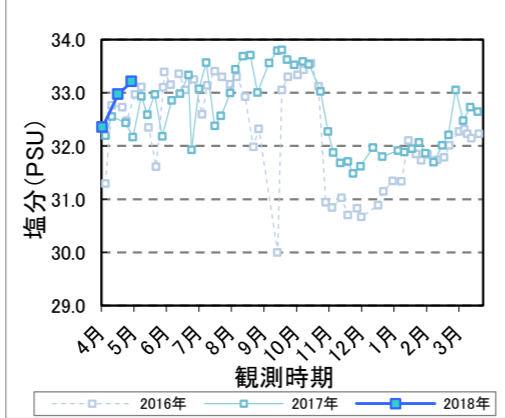
海洋環境データ

※観測：紋別市

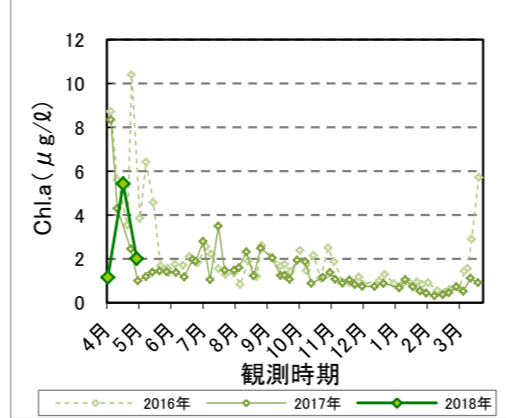
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



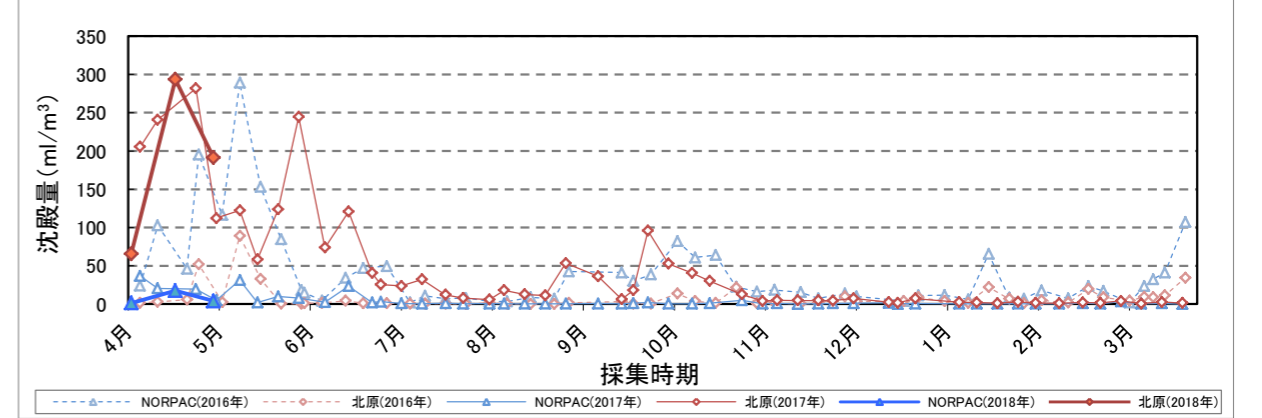
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



概要

	4月2日	4月17日	4月30日
平均水温 (°C)	3.1	5.1	7.0
平均塩分 (PSU)	32.4	33.0	33.2
平均Chl.a (µg/L)	1.2	5.4	2.0
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 1.4 (北原式定量ネット) 65.7	(NORPACネット) 17.5 (北原式定量ネット) 293.4	(NORPACネット) 4.2 (北原式定量ネット) 191.4
主な出現種	(NORPACネット) ○Pseudocalanus newmani [+] ○Eurytemora herdmani [+] ○Acartia hudsonica [+] ○Acartia longiremis [+] ◎Balanomorpha (nauplius) [++++] ○Thysanoessa inermis (nauplius) [+] (北原式定量ネット) ○Pseudocalanus newmani [+] ○Eurytemora herdmani [+] ◎Oithona similis [+++] ◎Balanomorpha (nauplius) [++++]	(NORPACネット) ○Paracalanus parvus s.l. [+] ○Pseudocalanus newmani [+] ○Clausocalanus peterseni [+] ○Eurytemora herdmani [+] ◎Balanomorpha (nauplius) [++++] ○Thysanoessa inermis (egg, nauplius) [+] (北原式定量ネット) ○Pseudocalanus newmani [+] ○Eurytemora herdmani [+] ◎Balanomorpha (nauplius) [++++] ○Thysanoessa inermis (egg, nauplius) [+]	(NORPACネット) ◎Pseudocalanus newmani [+++] ○Eurytemora herdmani [+] ○Acartia longiremis [+] ◎Balanomorpha (nauplius) [++++] ○Thysanoessa inermis (nauplius) [+] (北原式定量ネット) ◎Pseudocalanus newmani [++] ○Eurytemora herdmani [+] ◎Copepoda (nauplius) [++++] ○Thysanoessa inermis (nauplius) [+]
備考	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い	(NORPACネット) 珪藻かなり多い (北原式定量ネット) 珪藻極めて多い	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い

出現量の多かった種類



●Pseudocalanus newmani (カイアシ類の1種: 幼体 幼虫・コガ) 体長: 2.0-1.5mm, 0.8-1.2mm. 冷水域に極めて普通に出現する。東北以北の沿岸では冬季種としてカイアシ類の1種となる。

●Copepoda (nauplius) (カイアシ類のノープリウス幼虫) カイアシ類の発生途中の幼虫。脱皮を繰り返してノープリウス、コペダイト幼生の段階を経て成体になる。産卵後、産卵後しばらくはカイアシ類のノープリウス幼虫と区別が困難である。

●Eurytemora herdmani (カイアシ類の1種: 幼体 幼虫・コガ) 体長: 2.1-1.4mm, 1.1-1.2mm. 主に北半球高緯度地方に分布。日本では北海道東部の汽水域や沿岸域、青森十三瀬等、産卵のみで産卵後、産卵後しばらくはカイアシ類の1種となる。

●Balanomorpha (nauplius) (フジツボ類のノープリウス幼虫) フジツボ類の発生途中の幼虫。フジツボ類は幼虫が楕圓形で、卵の孵化後にノープリウス、キプリウス幼生の段階を経て成体生活に移る。

●Oithona similis (カイアシ類の1種: 幼体 幼虫・コガ) 体長: 2.0-1.0mm. 各地の沿岸・外洋で普通に出現。日本各地の沿岸にみられる代表的な種。各大洋に多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。

●Thysanoessa inermis (nauplius) (カイアシ類の1種: 幼体 幼虫・コガ) オキアミ類の1種で発生はノープリウス幼虫。北海道では主に4月-5月ごろに産卵がみられる。今月はノープリウス幼虫の産卵が、顕微鏡下で確認された。

※Eurytemora herdmaniおよびThysanoessa inermis (nauplius)は今月の優占種に含まれなかったが、出現頻度が高かったため参考として記載した。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い)。
 ※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。
 ※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。
 ※参考文献: ①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑[保育社]③岩国市立マイクロ生物館 監修(2011)日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]
 ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods. 8: The *Daniellsenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* 20 (4), 435-444.
 ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* 332, 206-215.
 ⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門[恒里社厚生館]⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* 52 (2), 92-99.
 ⑧西・加藤(2002)日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について. *タケクサ*, 13, 5-17.⑨今島(1996)環形動物 多毛類[生物研究社]⑩日本プランクトン学会 監修(2011)すかん プランクトン[技術評論社]⑪水島・鳥澤 監修(2003)漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]
 ⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼虫. *日本水産学会誌* 26 (9), 877-881.⑬伊藤・水島・久保田(2005)駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学*, 3 (1), 19-35.
 ⑭大越・野村(1990)穿孔性多毛類 *Polychaeta* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況. *日本水産学会誌* 56 (10), 1593-1598.